

報道関係各位
Press Release



2026年1月26日
コグニティ株式会社

【調査報告】CESのキーノートを分析すると 10年で200%以上成長する企業の共通点が見えてくる —ビジョンを示し、エコシステムを呼びかけ、その中心を担う企業は伸びる—

知識表現AIを用い、会話・文章データから組織課題を可視化するコグニティ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役：河野理愛、以下「コグニティ」）は、毎年1月に米ラスベガスで開催される世界最大級のテクノロジー見本市のCES*（シー・イー・エス）における企業トップのKeynoteスピーチを対象に、企業価値の10年成長率との関係性を分析しました。（*CES：旧Consumer Electronics Show）

なぜ、CESで大きな注目を集める企業の中から、10年後も成長し続ける企業と、そうでない企業が分かれるのか？分析により、その分岐点が「技術」ではなく「語り方の構造」にあることが明らかになりました。

短期的な話題性や注目度とは異なる、長期的に成長を続ける企業に共通する発信の仕方を報告します。



■ 10年成長企業に共通する「語り方」の構造

CES Keynoteと10年成長率の相関分析、ならびにこれまでの研究を総合すると、10年スパンで企業価値を伸ばしてきた企業の発信には、共通して次の構造が見られます。

1. 将来の社会・産業がどう変わらのかというビジョンを示している
 2. その実現には、自社単独ではなくエコシステムが必要であることを語っている
 3. 自社がそのエコシステムを主導する立場であることを、過度な主張なく伝えている
- 単なる製品紹介や技術説明ではなく、

「未来像 → 共創の呼びかけ → 主導的な立ち位置」
という一貫したストーリー構造が、長期成長と強く結びついています。

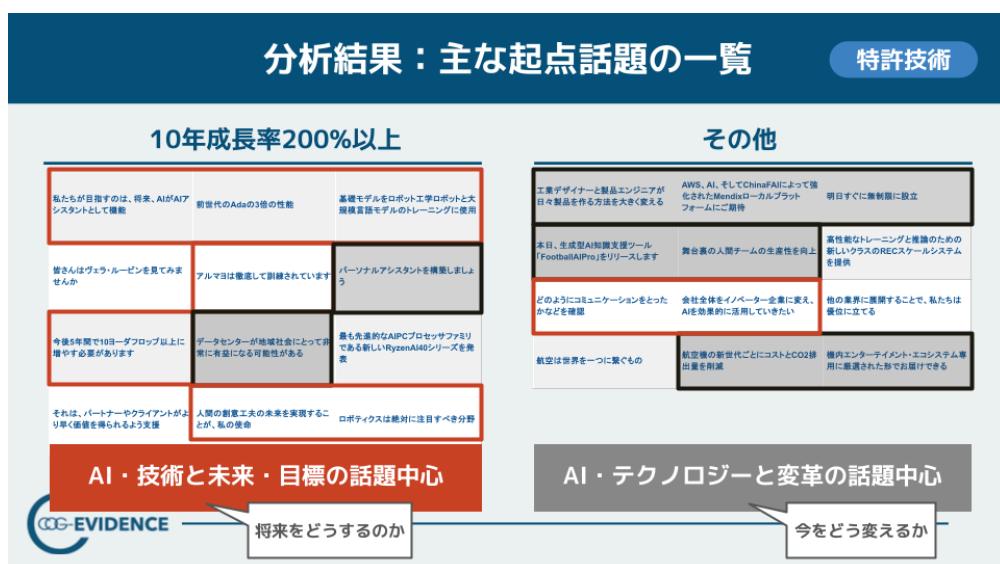
■ CES Keynote分析：10年成長率200%以上企業の特徴

CES Keynoteを企業価値の10年成長率で分類すると、10年で200%以上成長した企業群には、以下の傾向が確認されました。

- ・ 技術そのものではなく、未来でどう使われ、何を変えるかを起点に語る
- ・ パートナーや産業全体を含めた、エコシステム視点の話題が多い
- ・ 話の流れと因果関係が明確で、聞き手が途中からでも理解しやすい
- ・ 技術を「今の改善」ではなく、「次の世界をつくる力」として位置づけている

これらは、短期的な評価や話題性ではなく、10年単位の企業価値成長と相関する発信の仕方です。

下の図は、10年成長企業とその他企業の「話の起点の違い」を示しています。
赤で示す未来・目標の話題と、黒で示すテクノロジーと変革の話題の現れ方が異なります。



【結論】成長企業は「AI」ではなく「目標」から語っている

■ 今年のCESで見えた、象徴的なKeynoteの存在

こうした視点で今年のCES Keynoteを分析した際に特に印象的だったのは、多くの人が最初に思い浮かべる“象徴的なあの企業”とは異なる、大手AI半導体企業のKeynoteが、極めて完成度の高い発信を行っていた事でした。

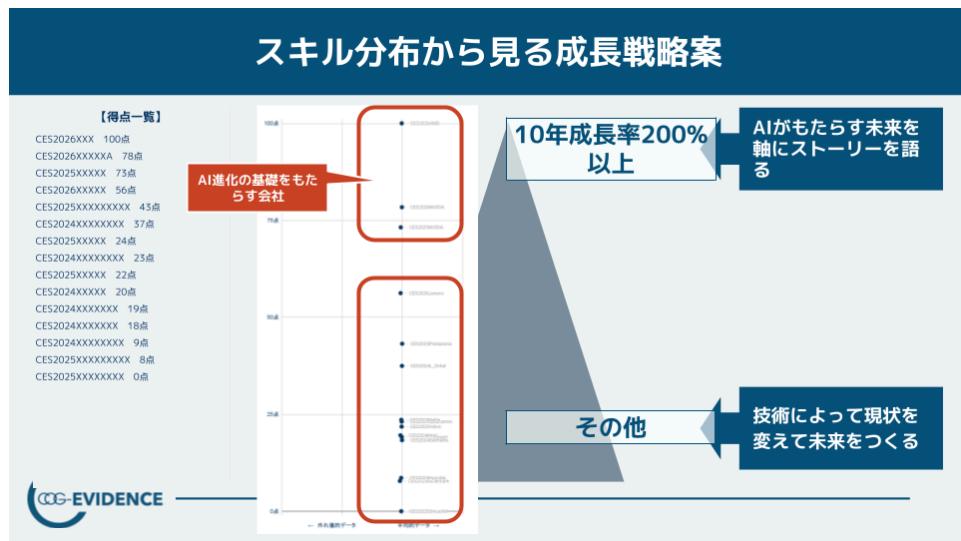
そのKeynoteの特徴は大きく三つあり、①AI時代における計算基盤の未来像が明確に描かれ、②単一企業の競争力ではなく、共創による価値創出の構造が語られ、③自社がそのエコシステムの中核を担う存在であることが自然な形で示されています。

この構成は、過去に10年スパンで高成長を遂げてきた企業群のものと合致し、今後の中長期的な成長を見通すうえで象徴的な事例といえます。

次の図は、10年成長率が高い会社のスピーチを基に各社のkeynoteスキルを分析して得点化して点として示し、上の点ほど高得点であることを表しています。

図の右には、10年成長率が200%以上の会社とその他の会社それぞれに共通する特徴を挙げています。

この大手AI半導体企業は一番上に位置し、二番目の企業の得点と大きな開きがあり、成長企業のkeynoteの特徴を非常に強く持っていることが分かります。



【結論】トップと2位の大きな差は、語りの構造差だった。

■ 背景：昨年のウェビナーで示されていた共通仮説

コグニティでは昨年、CES Keynoteを題材に技術発信の構造を分析するウェビナー「技術で語る企業価値～CESキーノートに学ぶ伝え方」を開催しました。

このウェビナーでは、

- 技術をビジョンに結びつけて語る構成
- 聞き手を導くストーリー性
- 共感と納得を生む説明の組み立て

などが、高い評価や10年スパンでの企業成長に関係していることを定量的に示しています。

今回のCES Keynote分析により、昨年の示唆が偶然ではなく、10年スパンの企業成長がもつ特徴であることを裏付ける結果となりました。



ウェビナー詳細・申込：<https://cognitee.com/news/webinar/16572>

■ 今年の分析レポートについて（限定公開）

本リリースで紹介した「CES Keynote 総合分析報告書（2026年版）」は、現在一般公開は行っておりませんが、個別にレポートについての共有を行っております。以下の観点か

ら、御社のIR・広報プレゼンテーションとの比較分析も可能となりますので、ご希望の方は、コグニティまでお気軽にお問い合わせください。

- 自社のKeynoteは「未来」から語れているか
- エコシステムの中での立ち位置を示せているか
- 10年後の成長を見据えたメッセージになっているか

*お問い合わせ先：<https://cognitee.com/contact>

*本分析は、「経営者/CxO」「技術広報・IR担当者」「事業戦略・研究開発部門を主な読者として想定しています。

■ コグニティの示唆

～成長企業は「技術を語る企業」ではなく「未来と仲間を語る企業」～

本分析が示しているのは、企業価値を10年単位で伸ばすために重要なのは、「何を作ったか、作れるか」ではなく「どんな未来を実現し、誰とそれを成し遂げるのか」を、構造的に語れるかどうか、という点です。

本分析は引き続き継続しており、今後数週間で追加の示唆も共有する予定です。

今後、これ以外にも様々な定性情報を分析することで、より多くの示唆を提供していきます。コグニティは、このような定性情報をデータとして捉え、戦略判断の根拠に変える技術を提供しています。

【コグニティ株式会社 会社概要】

- 社名：コグニティ株式会社
- 事業内容：定性情報の定量化技術を使った組織分析サービス
- 本社：〒140-0015 東京都品川区西大井一丁目1番2-208号
- 設立：2013年3月28日
- Web：<https://cognitee.com/>
- 資本金：6億円（準備金含む）
- 従業員：71名（リモートワーカー含む）
- 代表者：代表取締役 河野 理愛
- 受賞歴他：
 - EY Innovative Startup エンタープライズ部門受賞(2019)
 - 第11回 HRアワード 人材開発・育成部門 最優秀賞(2022)
 - 第22回一般社団法人日本テレワーク協会 テレワーク推進賞 優秀賞受賞(2022)
 - 第3回TOKYOテレワークアワード 推進賞(2023)
 - 一般社団法人生生成AI活用普及協会協議員(2023～)

本件に関するお問合せ
コグニティ株式会社 広報担当：奥井
Email: okuinagisa@cognitee.com TEL: 03-4212-8445